

# ZOOM発信・伝承文学あれこれ (20)・じじとばばえっと寝え

2022年9月19日 (月) 20:00~21:00

ただよし  
酒井 董美

じじとばば えっと寝え 手遊び歌 仁多郡奥出雲町大呂  
歌い手 堀江利治さん (大正5年生)

じいとばば えっと寝え  
嫁は起きて 火い焚け  
婿は起きて カンナ行け

収録日 昭和43年 (1968) 5月18日

## 解説

これはアケビの花粉で遊ぶ歌である。アケビは五月上旬から中旬にかれんな花をつけるが、色は赤、白、紫色などさまざまである。それを見つけた子どもたちは、花から五つか六つの雌しべを手のひらに載せ、この歌をうたいながら、一方の手で手首のへんをとんとんとたたく。すると手のひらの中の雌しべは、ひょっこり起きあがってくるものが出る。「二つ起きたぞ」「おらは三つ」「みんな寝たままだ」。子どもたちはこのようにして楽しんでた。

以前の子どもの世界では、自然の中にいろいろな遊びを見つけ、こうして愉快地遊んでいた。花粉を遊び道具として、楽しく遊ぶとは、何とすばらしいことか。

この歌は当時筆者がお借りしていた家の大家さんのところに来られた堀江利治さんが、筆者がわらべ歌などを収録していることを知って、「子どもの頃うたって遊んだものです」と元気よく教えてくださいました。

同じ種類の歌は昭和28年にも、雲南市頓原町志津見で山毛ツヤ子さん (大正4年生) から、次のように聞いている。

じいとばあは 寝とれ  
嫁は起きて 火を焚け  
婿は起きて 里へ行け

ところで、この堀江さんの歌では、なぜか最後がまったく違っていた。「婿は起きて カンナ行け」なのである。

たたら製鉄のとても盛だった奥出雲地方では、以前はカンナ流しが盛んに行われていた。これは山肌に強く水を吹きかけて土砂を流し、砂鉄を採るのであるが、子どもたちはちゃんとそれを眺めて知っていた。

それであるので、同じような子どもの遊び歌にも、そのような労働の存在が投影されたのであろう。ここでもその地域の特色が出ているのである。

そしてどうやらこの種類の歌は、まだ鳥取県では見つかっておらず、島根県下でも出雲地方の山間部に限って伝承されているようだ。けれども驚いたことには、はるか離れた九州に仲間が存在していた。長崎県南高来郡口之津町の次の歌である。

じいとばあは寝とれ  
嫁ごは起きて  
茶わかせ

これは柳原書店発行の福岡博・黒島宏泰著『佐賀長崎のわらべ歌』(日本わらべ歌全集・第2巻)に出しており、以下の説明が添っていた。「にしきぎ料の常緑灌木、榎(まさき)(じとばの木)の赤い実を三つとって、手の中で振る時にうたう。二個が一緒になり、一個が別になった時、二個が爺と婆で一個が嫁で、早く起きてお茶をわかしているという。三個一緒の場合は、まだ寝るとして、もう一度うたう。」

はるか離れた意外なところではあるが、こうして親族関係の歌は伝えられているのであった。



イラスト：福本隆男



## 受講者からの反響など

一本講座、月曜日の懇話会を問わず参考になるものを氏名明記で掲載します。匿名はおこないません。

9月4日

酒井董美様

秋らしい気配が感じられるようになってきました。  
後期の講座を辞退しましたのに月曜日の資料を送って戴きありがとうございます。

一番はじめは(手まり歌)  
はこちらでもポピュラーですのでついついメールしたくなりました。

土地柄でしょうか、こちらでは  
七つ名古屋の熱田さま  
となります。  
また  
十で東京二重橋  
が一般的かも知れません。

その続きを歌う場合は  
浪子の病気は治らない のあと

武男が戦(いくさ)に行く時は白い白い真っ白い  
ハンカチ振り振り ねえあなた  
早く帰ってちょうだいね

のフレーズがはいります。  
そのあとはだいたい同じです。

月曜日はほんの2～3人ですが外国籍の子どもにピアノを教えています。  
ちょうど夕食後の時間でして講座時間とぴったりはまっており残念です。  
月謝を戴いていないので、ピアノを上達させるのが目的ではないため逆に楽です。

二つの祖国を持つことになる彼らに日本のわらべうたを教え、また母国はどんなのがあるだろう？ということも親に聞いたりして教えてもらいます。  
根なし草になって欲しくないという思いですが、彼らは日本のわらべうたには日本人以上に興味を持ってくれます。

このうたは  
五音階ですから歌いやすいこと、地名があるので地理的にも興味を持ってくれること、大人にも脳トレにもなり人気の歌です。  
近くの高齢者施設はこの歌詞を額にして壁に掲げてあります。  
失礼致しました。

国枝直子

## 酒井より

国枝 直子 様

メール、ありがとうございました。

これまで熱心に参加なさっておられた貴女ですので、無料の雑談会だったら都合のよいときに参加なさればよいのではなからうかと招待状を送りました。

ご無理のないようになさってください。

小生、その昔、島根大学で外国人留学生に「日本事情」の講義をしていたとき、子どもの歌(学校唱歌)をCDで聴かせ、当番の外国人留学生に事前に黒板に歌詞を板書させておき、

メロディーをCDで流し、歌詞の解説をしたりしながら、講義を続けたものです。

ときには、わらべ歌も少し取り扱った覚えがあります。

ところで、「一番初めは」の歌は、広く歌われていたようですが、詞章は地方で微妙に違いますね。そこが伝承わらべ歌らしいと思います。

大変なこのごろですが、頑張ってください。(酒井董美)